

## 第75回 企業・組織のBCP/防災勉強会 議事録

作成：高村

1. 日 時：2021年4月2日（金）17時から18時30分まで
2. 場 所：ZOOM
3. 参加者：14名  
\*事務局：丸谷（災害研）、伊藤（災害研）、高村（東北大公共）

議 題：1. 「中小企業事業継続力評価チェック表案」の試案公表について

説明：東北大学災害科学国際研究所 丸谷浩明

○質疑応答（Q：質問 A：回答 C：コメント）

- C: 中小企業は備蓄用品を全て揃えているところは少ないので、備蓄によい回答できない企業も多いのではないかと。
- C: 弊社では、近隣の事業所や協力工場と提携する等、エリア内で必要な備蓄を行っている。
- C: 近隣から運んでもらうというのはいいアイデアだが、運べるかは地域性に左右される場所も大きい。
- C: 確認していないが多分大丈夫だろうと思うことが問題。完全体を目指すほどコストもかかる。点数が低いからダメというわけではなくて、弱いところを補うきっかけにしてもらえればよいのではないかと。
- C 備蓄について代替措置を考えているのであれば、それでよいという説明にしていきたい。
- C: 水害等では、起こりにくい地域もあるが、質問の中で水害を全く外すのか、それとも項目としては危機管理も含めて残すのか。
- C: 帰宅困難に関する質問で公共交通の利用を想定しているが、東北の場合、帰宅困難を考慮はされてるかという聞き方がよいのではないかと。
- C: 普段は災害が起こりえない地域で災害が起こることもある。あらゆる災害を考慮に入れた上で対策を考える1つのきっかけになればよいと考える。

議事②：「新型コロナウイルス感染症に関する宮城県（兵庫県一部）の企業のアンケート調査」の結果のご説明

資料：当研究室 HP から公開 <http://www.maruya-laboratory.jp/other>

説明：東北大学災害科学国際研究所 丸谷浩明

○質疑応答（Q：質問 A：回答 C：コメント）

C:感染症に対する BCP は衛生対策がメインになってしまっているものが多いが、大丈夫なのか。

C：新型コロナで特性がつかめたからこそ、事業転換できた部分もある。あらかじめ感染症を予測して対策を考えるのは難しい。

C:次の感染症に向けた対策は、感染症のタイプが異なると今回と同じ手法では通用しない可能性もある。似たような感染症が発生した場合には以前考えた対策が一部有効に作用する可能性も高い。新型コロナをきっかけに感染症対策を考えることには意義があると考えている。